

2025年(令和7年)の新ゴム消費予想量

この予想は、主要製品(業種)別に検討された当年の新ゴム消費予想量をもとに、当会で策定したものである。

ゴム工業での消費予想量

2024年を振り返ると、ロシア・ウクライナ戦争に端を発したインフレが一段落し、堅調な米国経済を中心に世界景気は軟着陸に向かって推移した。

日本経済は、個人消費が自動車の一部生産・出荷停止の影響で年初に落ち込んだものの、年央以降は歴史的な賃上げによる雇用・所得環境の改善を背景に回復し、内需は堅調であった。一方、輸出は欧米向けを中心に鈍化したことから、国内経済は実質GDP成長率が0.4%と緩やかな回復に止まった。

関連業界については、国内自動車生産台数が輸出の減少等により前年を下回っている。

このような状況下、主力の自動車タイヤは、国内出荷・輸出(いずれもゴム量ベース)ともに前年を下回った。工業用品も、自動車の生産・出荷停止が影響し、前年に比べ減少した。この結果、国内ゴム工業の新ゴム消費量は、1,164.5千トン、前年比-3.9%と減少の見込みとなった。

なお、2025年の新ゴム消費量は、民需主導で景気が回復基調を維持し、自動車生産も前年を上回ると見込み、1,172.7千トン、前年比+0.7%の予想である(表-1)。

表-1 ゴム工業における新ゴム消費量

	2023年 (R5年) (実績)	2024年 (R6年) (見込み)	2025年 (R7年) (予想)
消費量(千トン)	1,212.2	1,164.5	1,172.7
前年比(%)	97.7	96.1	100.7

(注) 本表の消費量は2024年末に策定された各業種団体等の予想および経済産業省統計の実績(1~10月)を基にとりまとめている。

主要製品別の新ゴム消費の内訳は、表－２のとおりである。

表－２ 主要製品別の2024年の新ゴム消費見込みと2025年の消費予想

(単位:トン)

製品別	2023 (R5年) (実績)		2024 (R6年) (見込み)		2025 (R7年) (予想)	
		前年比		前年比		前年比
		%		%		%
タイヤ類	982,290	96.6	942,590	96.0	949,820	100.8
自動車タ・チ	968,450	96.6	928,320	95.9	935,150	100.7
その他のタイヤ類	13,840	98.7	14,270	103.1	14,670	102.8
工業用品類	212,040	102.9	204,520	96.5	205,510	100.5
ゴムベルト	16,430	91.3	14,940	90.9	14,730	98.6
ゴムホース	33,890	103.6	31,630	93.3	32,160	101.7
その他の工業用品	161,720	104.1	157,950	97.7	158,620	100.4
その他製品類	17,870	99.1	17,390	97.3	17,370	99.9
ゴム履物類	850	92.4	800	94.1	780	97.5
その他のゴム製品	17,020	99.4	16,590	97.5	16,590	100.0
ゴム製品計	1,212,200	97.7	1,164,500	96.1	1,172,700	100.7

- (注)①タイヤ類はJATMA統計による。「自動車タ・チ」には運搬車タ・チ、フラップ・リムバンドを含み、「その他のタイヤ類」には、更生タイヤ用練生地(経済省統計)を含む。
工業用品類およびその他製品類は経済産業省の生産動態統計をベースとし、その他製品類の「その他のゴム製品」には 当会のゴム引布製品の統計を含めている。
- ② 工業用品類のうち「その他の工業用品」は、防振ゴム、各種パッキン、スポンジ製品、ゴム板、ゴムロール、防舷材、ゴムライニング等とする。
- ③ その他製品類のうち「ゴム履物類」は、ゴム底布靴、総ゴム靴等とし、「その他のゴム製品」は運動競技用品、医療衛生用品のほか、ゴム手袋、ゴム引布、家庭用品、事務用品等とする。

主要製品別の当年の新ゴム消費予想の内訳：

(1) タイヤ類： 949,820 トン（前年比 100.8%）

○ 自動車タイヤ・チューブ： 935,150 トン（前年比 100.7%）

品目/用途	予想	要因
新車用		・乗用車用、小型トラック用、トラック・バス用の各用途で増加を見込む
市販用		・夏用が前年を上回る（冬用は横ばい）
輸出用		・本数は増加も、ゴム量は減少

○ その他のタイヤ類： 14,670 トン（前年比 102.8%）

品目/用途	予想	要因
更生タイヤ		・環境志向の高まりや経済性からリトレッド需要増加

(2) 工業用品類： 205,510 トン（年比 100.5%）

○ ゴムベルト： 14,730 トン（前年比 98.6%）

品目/用途	予想	要因
コンベアベルト		・国内向けは主力の鉄鋼メーカー向け等が回復 ・輸出向けは海外景気低迷で鉱山需要が減少し大幅減
伝動ベルト		・国内、輸出とも主力の自動車産業、工作機械産業向け需要が前年並みと予想

○ ゴムホース： 32,160 トン、前年比 101.7%

品目/用途	予想	要因
自動車用		・自動車認証不正の影響を受けた前年の反動で回復し、その後は横ばい
高圧用		・主要需要先の建設機械で輸出が回復傾向 ・工作機械は国内の設備投資抑制、北米需要減少の影響があるも、中国等で新エネルギー・半導体関連需要が戻る ・年間では増加の予想
その他用		・一般汎用ホースは、産業分野の需要が安定

○ その他の工業用品： 158,620 トン（前年比 100.4%）

品目/用途	予想	要因
防振ゴム		<ul style="list-style-type: none"> 自動車認証不正の影響は解消するが、後半は落ち着く 自動車輸出は弱含み 年間では▲4.0%と予想
パッキン類		<ul style="list-style-type: none"> 自動車は増減両要因あるが、ガス機器等は交換需要が増加 国内外の需要先で減産の可能性あり 年間では▲2.2%と予想
スポンジ製品		<ul style="list-style-type: none"> 主力の自動車需要は見方が分かれるが、その他の関連産業を含め需要回復を見込み、年間では+6.9%と予想
ゴムロール		<ul style="list-style-type: none"> 製紙用はペーパーレス化による需要減が継続 印刷用は増加、その他用は横ばい 製鉄用は設備統廃合の影響あるも海外新設により増加 年間では+2.7%と予想
ライニング		<ul style="list-style-type: none"> 化学工業（ソーダ用）や水処理、化学機械装置向けで需要が増加 車両・船舶やその他向け、輸出関係の伸びは期待薄 電力向けは減少 年間では+16.0と予想

(3) その他製品類： 17,370 トン（前年比 99.9%）

○ ゴム履物類： 780 トン（前年比 97.5%）

品目/用途	予想	要因
ゴム履物		<ul style="list-style-type: none"> 原材料価格の高騰、円安、物価高騰の影響で需要減

○ その他のゴム製品： 16,590 トン（前年比 100.0%）

品目/用途	予想	要因
医療衛生用品		<ul style="list-style-type: none"> 高水準だった昨年実績から横ばいを見込む
運動競技用品		<ul style="list-style-type: none"> 野球ボールは特需（大谷効果）が一段落 ゴルフボールは国内向けで横ばい、海外向けは増加 国内は競技人口減少で需要も減少傾向だが、海外向けは円安による引合いが増加
ゴム手袋		<ul style="list-style-type: none"> 家庭用は値上げで販売減もコロナ禍の反動減から回復 作業用はコスト意識が高く、交換頻度の見直しや耐久性の向上により微減 医療用は横ばいが続く 年間では横ばいと予想

(付) ゴム工業における天然ゴムと合成ゴムの消費割合

2025年のゴム工業における新ゴム消費量1,172.7千トン(前年見込み比100.7%)のうち、天然ゴムと合成ゴムの消費内訳は、天然ゴムが628.6千トン(同100.7%)、合成ゴムが544.1千トン(同100.7%)の予想である(天然ゴムの使用比率は53.6%) (表-3)。

表-3 ゴム工業における天然ゴムと合成ゴムの消費内訳

(単位:千トン)

	2023年 (R5年) (実績)	2024年 (R6年) (見込み)		2025年 (R7年) (予想)	
			前年比		前年比
天然ゴム	648.3	624.2	96.3%	628.6	100.7%
合成ゴム	563.9	540.3	95.8	544.1	100.7
合計	1,212.2	1,164.5	96.1	1,172.7	100.7
天然ゴムの 使用比率(%)	53.5	53.6	+0.1	53.6	±0.0

以上

<参考①>

ゴム工業とゴム工業以外での新ゴム消費量：

(単位：千トン)

	2023年 (R5年) (実績)	2024年 (R6年) (見込み)	前年比	2025年 (R7年) (予想)	前年比
			%		%
ゴム工業	1,212.2	1,164.5	96.1	1,172.7	100.7
ゴム工業以外	195.0	193.6	99.3	191.7	99.0
合計	1,407.2	1,358.1	96.5	1,364.4	100.5

<参考②>

1. 四輪車の生産台数：

	2023年 (R5年) (実績)	2024年 (R6年) (見込み)	2025年 (R7年) (予想)
生産台数(千台)	9,000	8,240	8,444
前年比(%)	114.9	91.6	102.5

(注) 2024年の見込みおよび2025年の予想台数は、
一般社団法人日本自動車タイヤ協会の見通し数字による。

2. 2025年度の主要経済指標の対前年度増減率：

実質国内総生産(GDP)	1.2
実質民間最終消費支出	1.3
実質民間企業設備投資	3.0
鉱工業生産指数	2.4
為替レート(円/ドル)	153.6

(注)「令和7年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度」
(2024.12.25閣議了解)より